

さちひろ

天理教狭千廣分教会の広報紙
1面・不要なものはありません
2面・まだ喫煙しますか
3面・おやさま逸話篇から
4面・教会の動き・編集後記

発行：天理教狭千廣分教会 〒589-0021 大阪狭山市今熊1-1133 072-365-2571
E-mail:wat@sachihiro.com url:http://sachihiro.com 編集兼発行人・山口 渡

教会の動き

さちひろ

教会の動き

朝づとめ：毎朝・6時30分
夕づとめ：毎夕・7時00分
元日祭：午前7時・午後1時30分
春季大祭：1月21日午後1時30分
秋季大祭：10月21日午後1時30分
月次祭：毎月21日 午後1時30分
春・秋季霊祭：3月22日、9月22日 午後1時30分
教会の場所は、左の地図の★マーク。市立公民館の裏・西側です。



受講料 15歳以上
内容：主論講義コース
(1時間30分所費)
「十才」→「天理教陽気」の
しるし 教への機嫌と教会本部
まつりでのさまざまな活動を紹
介します。
講師：かきもの・かりもの
・講師自身近況などを題材に、心
とからだの独特な 教えについてお話し します。
「十才」→「信仰のよこひ」・信仰する人たちの
心の姿を紹介します。
講師：「親神様・教祖・おん
ゆきなきい幸せを築くために何 が大切か 講
師が分かりやすくお話しします。
会場：おやさま公民館(二樓階下)(受付も階下
へ)
受講料：500円(の袋に入れてお出してください)
開催日時：毎日開催(12月28日・1月1日を除く)
平日午後1時30分 土日祝日及び25日 27日午
前9時30分・午後1時30分
《本誌発刊日等特別な日は、開催時間が変わることが
あります。詳しくは開催日程表をご覧ください》

不要なものはありません

人間には五感と呼ばれる感覚があつて、それを通して外界と接しています。五感とは視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚です。お道の教えは、この五感全てを動員して人に訴えています。他の宗教に見られないすばらしい特質だと思えます。

どの宗教でも、話を聞くことは一番大切なことでしょう。天理校もそうです。神様の話を聞き分けてこの道に入ります。別席・をびや・お守りなど、いずれも「聞き分ける」ことが重要なポイントになっています。しかしそれに留まりません。天理教は、神様の働きを見て(見せて)信じる証拠信心、おさづけの取次のように、手で直接触れてたすけます。また「食べて味わう」は、神様が人間を拵えられた

時、その本性を見定める際になされた技で、人と人との交わりの上で大切な点を指摘されていると思います。そして、極めつけは、この教えを人に伝えるのに、「にをい」という臭覚に訴えられている点です。

ところで、臭覚を刺激するにおいについて、人間に快感を与えるものを「香り」と呼び、不快な臭気は「悪臭」と表現されます。工場や事業所から発生している悪臭苦情は全国で2400件以上もあるそうです。この判定のために、「臭気判定士」という資格まであります。自治体からの委託を受けておのいの測定をしているそうです。
現代日本の社会には、悪臭を除去、除外する傾向があります。たとえば、脱臭・消臭

剤、にをい消し、抗菌、除菌はにおいではありませんが、考え方は同じ。要するに「臭いものには蓋をせよ」です。この風潮、あまり好ましいものとは思えませんね。たとえば、ウンコの臭いをなくするような飲み薬があるそうです。

ウンコの臭いなくなったらどうなります? かつて衛生観念が薄れて、不潔な扱いが蔓延してしまうのではないのでしょうか。
神様がお作り下された世界でありますから、ありとあらゆるものは必要があつて存在するのです。人もものもすべては、陽気ぐらしに必要なもの。不要なものはありません。においも同様です。脱臭、除臭、消臭、ではなくて、香りも臭いも含めて「にをい」を大切にしたいものです。

《編集後記》

6日発行を予定してましたが、都合で遅れました。10月は秋祭りのシーズンです。わが町もだんじり祭がやってきました。2日に試験曳き、8・9日が本番。8日は雨模様。午後からは集中豪雨のような降り方でした。最悪のコンディションのなか曳行、9日は秋晴れて最高の条件で有終の美を飾りました。

さちひろ 第7号
編集兼発行人・山口 渡
平成17年10月10日
大阪狭山市今熊1丁目1133番地
・072-365-2571



天理の紹介

まだ喫煙しますか？

筆者も二十代から三十代のはじめまで喫煙していましたが、胃潰瘍になって以降、きつぱりやめました。当時はまだ、市販されていたパツケージには、「健康のため吸い過ぎには注意しましょう」程度の文章が印刷されているにすぎませんでした。

最近では、包装面積三分の一も占める警告文が掲載されています。いわく「喫煙は、あなたにとって脳卒中の危険性を高めます」。人により程度は異なりますが、ニコチンにより喫煙への依存が生じます」などと。

実際、世界中で、タバコの害で死亡する人の数は、年間に五百万人にも達するといえます。日本では、J.Tの(対象一万六千人、しかも成人に限った)調査によると喫煙率は29・4パーセント(男性46・9パーセント、女性13・2パーセント)で、先進国中トップ。ことに女性の喫煙率がこの十年間に倍増しているとか、タバコは健康を害することは明々白々です。肺ガンはもとより、喉頭ガン、胃

ガン、虚血性疾患、流産など40種類の疾患の原因になると言われています。常習的に喫煙する人は、一本吸うごとに5・5分寿命を縮めるとか。

ところがこのガンの発症には、ある特定の遺伝子が関わっていて、タバコを喫煙しているとだれもがガンになるわけではありせん。なる人とならない人がいます。この個人差に遺伝子が深く関わっていることが、最近専門家の研究で明らかになったそうです。いずれ近いうちに遺伝子を調べたら喫煙によってガンになるかならないかがわかるようになるかも知れません。(村上和雄「たばこの害と肺がんの遺伝子学的な考察」(『みちのとも』立教2008年10月号参照)

わたしは「ならない人」であっても、他の人は「なる」可能性があるわけので、周囲に対するタバコの害(受動)を考えると、借り物であるこの体を蝕むような生活習慣は絶対方がいいですね。禁煙を身近なところから実行していきたいものです。

高橋美津志著『ちよつとひとこと』より

幸せを届ける言葉

「夫婦喧嘩」

ある内科の医師が、幼いわが子がよく高熱で床につく、そのつど診察したが発熱の原因が解らない。ところがある日のこと、

「フ、三年前の日記を読んで愕然とした。夫婦喧嘩をした翌朝、いつも子供が発熱していた。

子の病の原因は、夫婦の心のすれあいがあった。

昔から、「夫婦喧嘩は犬も喰わない」という。世の中には、

犬も喰わないマイナス夫婦喧嘩を、子に食べさせて、

気づかない親がいる。

夫婦の心の治まらない過程には、健全な子供は育たない。

『稿本天理教祖伝逸話篇』 90

明治十四年頃、山沢為造が、教祖のお側へ寄せて頂いた時のお話に、「神様はなあ、『親にいんねんつけて、子の出て来るのを、神が待ち受けている。』と、仰っしゃりますね。それで、一代より二代、二代より三代と理が深くなるので。理が深くなって、未代の理になるのやで。人々(にんじん)の心の理によって、一代の者もあれば、二代三代の者もある。又、未代の者もある。理が続いて、悪いいんねんの者でも白いんねんになるねど。」と、かようなお言葉ぶりで、お聞かせ下さいました。

【解説】 山澤為造：安政4年(1857)1月12日父・山澤良治郎、母のぶの次男として、新泉村に生れる。元治元年頃、父に連れられておだばに参拜。明治20年梶本ひさと結婚。おやしきに伏せ込む。後に、初代真柱様が亡くなられたとき、幼少であった二代真柱様の擧行者をつとめられた。父の良治郎は秀司先生なきあと初代真柱様の後見役をされているので、二代つづいて真柱を支えるという希有の経歴の父子です。

一代より二代

人間は、善悪の心を使って毎日暮らしております。この心づかいは、神様がいつもご覧になっていて、魂に自動的に記録・保存される仕組みになっています。中でも悪い心づかいは、ほこりのように積みかさなりがちです。これがたまって、魂にこびりついてしまったものを「いんねん」と言います。かならずしも悪い心づかいはかりが積もるのではないのですが、つまりよい心づかいは積もるのですが、しかし悪いものは、人間の都合の原因になるので、問題とされます。私たち人間は、いい心づかいは蓄積は、ほとんど無視しています。無視してもいいと思っています。しかしこの善悪のいんねんが今あるわたしの境遇の「もと」になっていると考えられます。自分で過去に蒔いた種が芽を出し、花を咲かせて、種通りの実がのるので。もちろん、悪いことも善いことも前生に播かれていた場合もありますから、その人のしすべ

ての原因があるとは言えませんが、しかしそうした前生も含めて、わたしの蒔いた種であることを自覚することは大切なことと、教えられます。このいんねんを寄せて守護していると言われます。

いんねん寄せてせんしよのいんねんよせてしよこぶするこれ八まふたころの人がさきも、一号74どのよふなところの人があるから、四号54「心の合うた者」(九六)に次のような話が載せられています。

明治十四、五年頃、教祖が、山沢為造にお聞かせ下されたお言葉に、「神様は、いんねんの者寄せて守護して下さるねど。『寄り合っている者の、心の合った者同志一しよになって、この屋敷で暮らすねど。』と、仰っしゃりますねど。」

結局、逸話篇に「理が続いて、悪いいんねんの者でも白いんねんになるねど」とあるように、代を重ねてこのお道の信仰を続けていくことによって、魂がだんだんと浄化されて、「悪いいんねん」も「白いんねん」になると論じています。一代で浄化される場合もあるし、二代三代と時間がかかる場合もあります。「白」はほこりが払われた、清浄な状態をイメージした用語です。「理が深くなる」とあるのは、この浄化作用によって、神様との信仰の絆が強く固くなることを言われていると考えられます。